

2018年（平成30年）3月12日（月曜日）

防災力強化 方策探る



参加者が防災力強化に向けた方策を考えたフォーラム

11日、八戸市津波防災センター

八戸工業大防災技術社会システム研究センターと八戸市は11日、同市沼館4丁目の市津波防災センターで「3・11防災フォーラム」を開いた。市民や関係者約80人が参加し、東日本大震災の被害を教訓に防災力を強化する方策を探った。

同大は専門的な視点から3件の研究・事業内容を発表。このうち、土木建築工学科の高瀬慎介講師は、コンピューターシミュレーション技術を活用した津波防災について報告した。

実例を挙げつつ、コンピューターの数値シミュレーションは▽耐震化策の強化▽防護施設の新設▽ハザードマップによる避難方法の対策―などに用いられるとし、「防災や減災のためにも必要な技術で、ハード面とソフト面の対策に深く関係している」と強調した。

このほか、国立研究開発法人・海洋研究開発機構（JAMSTEC）の小平秀一、地震津波海域観測研究開発センター長は、深海調査を基に東日本大震災が発生したメカニズムを説明。市防災危機管理課の担当者、会場となった津波防災センターの機能などを紹介した。

（松原一茂）